

割合と社会的正義

以前、小学校の先生向けの雑誌で、Brian Greer 先生の「[社会的正義についての割合的感觉](#)」という論文の紹介をしたことがある。その後、割合についていろいろ考えてみる中で、改めて割合の学習にとって“正義”という感覚が、かなり本質的に重要なのかもしねないと感じられるようになった。

平成 29 年告示の学習指導要領に対する[解説の算数編](#)でも、「割合を表す数は、基準量を単位とした比較量の測定値であるともいえる」(p. 218)と説明されている。割合で比較する場合、比較する 2 組の量の間で、基準量は必ずしも同じであるとは限らない。つまり、割合による比較とは、[同じとは限らない単位を用いた測定値による比較](#)ということになる。1.8 メートルと 3.2 フィートを比べて 1.8 と 3.2 だから後者の方が長い、という判断が誤りであるように、異なる単位を用いた測定値をそのまま比較するのは、基本的には不適切であろう。しかし、割合ではこれがむしろ推奨されている。

例えば、募金と呼び掛けていた時にある人が 1 万円を寄付してくれ、別の人が 500 円を寄付してくれたとする。円を基準として考えれば、前者の方の寄付金額が圧倒的に多く、募金を集めたい自分としても大変助かる。

しかし、前者の人が実は月収 100 万円のビジネスパーソンで、後者は月のお小遣いが 1000 円の子もだとすると、必ずしもそうとも言い切れなくなる。前者の人は月の収入の 1 % を寄付してくれたのに対し、後者の子は月の収入の実に 50 % を寄付してくれたのであった。そうすると、50 % を寄付してくれた気持ちを大切にしたいと思うであろう。

割合による比較は、こうした思いを重視した比較のように思われる。それぞれの人の事情を考慮した比較という意味で、“優しい” 比較かもしれないし、それぞれの事情に考慮した負担を求めるという意味では“社会的正義”に繋がるのかもしねない。

割合による比較を学習するにあたり、こうした側面はどの程度、大切にされてきているであろうか。

【[算数・数学教育における IAQ に戻る](#)】